

# 市政 報告

発行:長島有里事務所  
逗子市逗子4-1-33  
(電話/FAX 046-890-0324)



ながしま ゆり  
**長島 有里**

逗子市議会議員 3期目 副議長  
無所属 39歳  
立教大学法学部卒  
横浜市立大学大学院修了  
会派:市政クラブ  
NPO法人KANATAN副理事長  
趣味:料理・読書・マラソン  
大学生と小学生2児のママ  
<http://nagashimayuri.com>

## 【学びをあきらめない社会へ】

「夜遅くにごめんなさい。今、A君がかなりやばそうなんですけど、彼から連絡が来ていませんか？」



深夜にこんなメールを知人より受け取りました。A君を高校時代から見守ってきたのですが、彼が今も深刻な家庭内暴力を受けていること、このままではせっかく進学した専門学校もやめてしまいそうであることがわかりました。翌日すぐにA君に連絡し近況を尋ねました。話を聞くほどに彼が出口の見えない暗いトンネルの中にいるようなやるせない気持ちになりました。

昨年、児童福祉法が改正され、自立援助ホーム※の入所条件が就学中に限り22歳の年度末まで引き上げられました。児童擁護施設退所者の大学進学率は約20%でそのうち進学者の約3割が経済的な理由などにより中退しています。

若者が経済的に自立していくためには、働いて自身の生活費を稼がなくてはなりません。生活費を稼ぐためだけでなく、自分のなりたい職業につくためには時に大学や専門学校でスキルを学ぶ必要があります。しかしながら、そのような若者に対する18歳を過ぎてからの現場の公的サポートはほとんどないのが現状なのです。

A君は、作業療法士を目指しており、介護施設で認知症の方と福祉系の専門学生のシェアハウスを実施している方を紹介しました。この施設では、**認知症のある高齢者と居場所確保が難しい若者との『世代間同居のマッチング』**にとりくんでいます。家賃はゼロで若者は実習の中で介護や医療を学ぶことができます。

このケースの様に、行政だけでは対応できない様々な問題を抱えた時代。このシェアハウスは経費が膨らむ一方の高齢者福祉と子どもの貧困問題を両方とも解消する可能性を秘めている取り組みといえます。子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されずに、十分な教育が受けられる社会へ。地方議員として、幸せな未来を描ける子どもが一人でも増えるようにミスマッチの解消や

## 『つなぐ』

ということを軸に活動してまいります。



## 【逗子市は児童虐待 0ゼロへ】

逗子市で長年に渡り主任児童委員を務めてこられた草柳ゆきゑさんと初めてお会いしたのは、私が逗子市内で児童ホームを題材にしたドキュメンタリー映画『隣の人』の上映会をした時でした。

「長島さん、逗子に児童ホームをつくってください！」とその時にご要望頂いたことを今でも記憶しています。その後も私が立ち上げたNPO法人KANATANの活動に度々参加してくれました。草柳さんは、児童委員として市内の子どもたちの見守りをずっと続けてこられた方です。

約2年前、草柳さんがついに逗子で子ども0円食堂を立ち上げました。今では100人近い大勢の子どもたちが彼女がつくりだす美味しい食事とアットホームな雰囲気にも癒されています。

様々な事情により子どもを育てられない家庭があります。役所や学校だけでは、家庭への介入に限界があります。子ども0円食堂では、どんな子どもも無料で温かい食事を食べることができます。主に地域の方や商店から食材の寄付を受け、スタッフは全員ボランティアです。

企業にとっても、例えば防災用の備蓄食材などは期限が近くなると破棄してしまうため、こうした食材を寄付することはお金もかからず地域貢献にもなります。



(防災パンがパフェのケーキに変身！)



(代表の草柳さん)

逗子の子ども食堂では地域の高齢者も参加されています。世代間交流の場としても交流が広がっています。

全国的には、児童虐待の痛ましい事件は後を絶ちません。市に寄せられた昨年の虐待通報件数は87件、一時保護された児童は2名いました。逗子は子どもの虐待事件を0ゼロにしたい。こうした子ども0円食堂のような

## 『人と人をつなぐ場所』に対する支援活動

にもより力を入れていきたいと思っています。

※自立援助ホーム 15歳～20歳までの家庭にいたることができない児童の自立を目指す家。若者の最後の砦といわれている。



## 子育て

子どもを産んでも好きな仕事を続けられる社会へ！  
ワークライフバランスのとれた暮らしを応援します。  
保育園・学童の待機児童対策は必須  
子育て情報提供・子育てポータルサイトと子育てアプリ開設  
病児保育・利用料金1時間900円→1時間300円へ値下げ  
虐待通報時の安否確認・100%訪問を実施  
ひとり親世帯支援・市営住宅の優先入居を要望中



## 教育

学びをあきらめない社会！  
家庭環境の格差が教育格差につながらないように、公立教育の充実を図ります。  
美味しい中学校給食・食缶方式へ変更を要望  
生活保護世帯児童の学習支援・ゆうやけ教室9名が受講  
元教員による中学生への無料学習支援・スマイルスクール32名が受講  
公立小学校のタブレット端末の導入・特別支援教室の児童に7台配布  
中学校部活動顧問の委託化・37人が外部顧問



## 元気シニア

年々値上がりをする介護保険料に国民健康保険料。  
元気シニアを増やすことで財政負担を抑制します！  
パブリックサービスの業務拡充・ホワイトカラーの受け皿となるような新しい仕事を  
楽しみながら認知症予防・高齢者センターでの麻雀や介護予防事業に社交ダンスを取り入れました



新年が始まり、市内様々なイベントに参加しております。8日は逗子市成人式に参列しました。私の長女もその日成人式を迎えました。思い出おこせば20年前。自分の成人式は、夫が全国最年少市長で私が新成人ということになりました。懐かしい友人との再会を楽しみ幸せそうな長女をみているとああこんな成人式が過ぎたかったなあと思います。でもきっと20歳に戻れたとしても私は人と違う道を選んでしまふ気がします。18歳で結婚、19歳で出産。育児をしながら23歳で大学進学、27歳で議員になり、32歳で大学院に進学しました。迷ったり、悩んだりした時に学んだことを通してなんとか乗り越えてくることができ、今があります。「学びをあきらめない社会」を創ることで1人でも多くの人たちの力になつていきたいと思えます。

【編集後記】

# 長島有里が力を入れてきた政策



### 長島有里のここが大事！

生活保護世帯で育った子どもが大人になり再び生活保護を受ける率は約25%。およそ4人に1人の子どもが負のループから抜け出せないといわれています。家庭環境の格差がそのまま子どもたちの学力の格差につながることをないように子どもたちが自分の将来をあきらめずに、学習と進学を保障を支援していくこと。これが遠回りのようで貧困の連鎖を断ち切る最短で最良の手段だと考えます。これまでに議会でのこの問題についてたびたび政策提言してきました。(→平成27年6月一般質問会議録<http://www.kaigiroku.net/kensaku/zushi/zushi.html>)  
一昨年からは市役所の閉庁時間の会議室を活用し、生活保護世帯の児童を対象とした学習支援事業を開始、またさらに昨年からは市内全中学生を対象とし、大学生と元教員の方らによる無料の学習・進学相談も始まっています。



## まちづくり

自然と調和した美しいまちなみを。  
街の景観は住む人の心をうつします。  
電線類の地中化へ・田越川沿いを県に要望中  
駅前交通渋滞解消・交通調査を実施  
空き家の有効活用へ・世代間同居を推進します  
海の家の景観統一・外壁やパラソルの景観誘導



(近藤県議とともに県の土木事務所へ要望)



ご意見、ご要望はこちらまで  
yuri\_nagashima@yahoo.co.jp

---



---



---